

様式2 令和4年度 清瀬市立清瀬第四中学校 学校評価表

学校教育目標	人間尊重の精神に徹し、自己の能力伸長と人間形成に努める人を育成する 創造 温情 実践 健康	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
目指す学校像(ビジョン)	保護者・地域から信頼され、通いたい・通わせたいと思われる学校 夢や志・目標をもち、教養と品格を備え、自分で考え、伝え、行動する生徒 教育公務員としての使命を自覚し、熱意と向上心に溢れ、教育のプロとして主体性を発揮する教師	【育成を目指す資質・能力】 ○自分で考え、伝え、行動し、未来を創造する力 ＊考動・表現・創造 ○多様性を認め、他者対話・協働し、学び続ける力 ＊対話・協働・継続 ○困難を乗り越えるしなやかで逞しい心身、我慢強く挑戦する力 ＊しなやかさ・逞しさ・我慢強さ

前年度までの学校経営上の成果と課題

【成果】GIGAスクール構想に準じたICT活用力の向上、コロナ禍でも学びを止めない柔軟な対応、令和4年度以降を視野に入れた新たな経営計画の準備
 【課題】◆経営計画の具現に向けた全教職員のベクトルの一致 ◆「主体的・対話的で深い学び」の実践&ICTを文房具のように活用する技能 ◆職層・職責に応じた言動

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策	
		評価	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策	
		取組指標	成果指標			
確かな学力の向上	○分かる授業、教科好きを育てる授業実践力の向上 ○生徒を主体とした授業の意図的・計画的な実施 ○教室環境の整備・授業規律の徹底	4	3	授業のねらいを明確にし、振り返りを行うなど授業の定型化を進め、授業規律を確立を図った。単元に1回以上は生徒が主体となる授業を意図的・計画的に実施し、授業観察を行い管理職との協議を行った。	生徒を主体とする授業、分かる授業への取組が進んでいることが理解できる。学力向上のための学校独自の方法について、日頃より探求していることが評価できる。その一方、生徒による授業アンケートでは、「分かりやすい」と評価する意見もあるが、教員アンケートと比較するとあまり当てはまらない「当てはまらない」という数値がやや高いようなので、改善の余地がまだあると思われる。朝学習やタブレットの活用について、「あまり当てはまらない」という回答が一定数ある。朝学習の大切を理解し、ICTの活用等を通じてさらに定着する取組を期待したい。	授業改善・学力向上・研究推進委員会を中心に、生徒による授業アンケートの結果を分析し、さらなる授業改善を推進し「分かる授業」を実践する。単元に1回以上は生徒が主役となる場面を創出し、意見交換や発表を通じて、生徒の主体性を引き出す工夫を継続していく。
	○朝学習・朝読書の効果的な実施 ○ICT活用力・応用力の向上	3	3	朝読書により読解力や言語能力を高め、朝学習を通じて基礎学力の向上を図った。校内研修で教員のタブレット等ICT機器の活用スキルを高め、意見交換を行い授業における効率的な使い方を模索し定着させた。	朝学習やタブレットの活用について、「あまり当てはまらない」という回答が一定数ある。朝学習の大切を理解し、ICTの活用等を通じてさらに定着する取組を期待したい。	引き続き、朝読書により読解力や言語能力を高め、朝学習を通じて基礎学力を高める取組を継続していく。生徒の実態に合わせ、内容や方法を検討し、ICTの活用により学習機会を保障し、学習効率を高める取組を実践する。
豊かな心の育成	○SDGsを根幹に据え、経験や体験を重視し、3年間を見通した総合的な学習の時間の実施	3	3	第1学年におけるフィールドワークでは地域を知り、第2学年では地域を歩き危険箇所等を探し、よりよい街づくりを考えるなど、SDGsを根幹に「知る」「広める」「深める」をキーワードにした3年間を見通した取組を進めた。	教員アンケートの評価も高く、コロナ禍でありながら工夫を取り組んでいると思う。SDGsは世界的にも取組が行われており、生徒にも関心のもちやすいテーマだが、まだ関心をもていない生徒への手立て、取組が大切である。地域の人材を活用し、地域との交流を促進していくことも検討してはどうか。	SDGs、特に環境問題に焦点を当て、「知る」「広める」「深める」をキーワードにした3年間を見通した学習を計画的に実行していく。地域との交流、地域人材の活用を積極的に促進し、地域の環境についての理解を深める取組を実践していく。
	○全教育活動を通した、生徒主体で考動・表現できる舞台の創出	3	3	生徒会を主体とした地域と連携した清掃活動や、各委員会を中心とした落ち葉清掃ボランティア、運動会や合唱コンクールなど生徒主体で考動できる場面を創出し、学校全体的な活動を活性化している。	運動会や合唱コンクール、または清掃ボランティアなど、生徒が自ら考動できる場面が増えたことは評価できる。今後この取組を継続し、深めることが大切だと思う。	生徒会を中心に、落ち葉掃き清掃ボランティア、エコキャップ、命のフォーラム等への参加を継続する。運動会、合唱コンクール、校外学習など、学校行事に対しても実行委員会を中心に生徒が自ら考動できる環境を整え実践していく。
健全な体の育成	○基本的な生活習慣の形成 ○全教育活動を通した運動の必要性の理解と運動に親しむ習慣の育成	3	3	本校の生徒は基本的な生活習慣が身に付いている。朝食はしっかりとってくる生徒が多く、体調不良などの理由もなく遅刻をしなくなる生徒は多い。体育の授業や運動会への取組等を通じて、生徒が運動に親しめるよう促した。	遅刻をしなくなる生徒はほとんどなく、登下校中の生徒の多くは挨拶をしてくれています。知り合いの子どもにも挨拶をしても、返事をしてくれないこともあります。思春期で難しい時期ですが、挨拶の習慣は大事です。基本的な生活習慣はしっかり身に付いています。	健全な中学校生活の根幹は規則的な生活習慣にあることを理解させ、朝の挨拶運動等を促進し、よりよい挨拶の習慣を定着させていく。運動の習慣を積極的に推奨し、日頃からコンスタントに運動する習慣を身に付けらるようにする。
	○全教育活動を通した健康・安全教育の推進	3	3	各部活動においては効果的な練習を工夫した行った。薬物乱用防止教室、保健講話、外部講師を活用したがん教育等を通じて健康・安全教育を促進していく計画である。	部活動は生徒の成長にとって必要不可欠です。顧問の確保等難しい面もあるが、外部コーチの活用などにより継続してほしい。部活動の効率化に伴う活動時間の減少による、生徒の健康面への弊害が懸念される。	引き続き健康教育・安全教育の促進を継続し、薬物乱用防止教室、保健講話、外部講師を活用したがん教育等を活用し、健康に関する生徒の理解を深め、防災訓練等を通じて安全・安心な学校づくりを実現していく。
特別支援教育の充実	○生徒や保護者に寄り添う教育の実践 ○深い生徒理解と強固な信頼関係の構築	4	4	常に生徒や保護者からの声に耳を傾け、学年等で共通理解をもつて組織的に対応した。生徒の状態によって適宜適切な対策を考え、迅速に対応することで信頼関係を構築した。	生徒の声に耳を傾け、学校全体で共通理解をもつことは大切である。生徒・保護者との交流を通じて信頼関係を構築し、それに基づく配慮が必要。相談しやすい環境を整備することにより、生徒が話しやすい雰囲気をつくることも重要。	常に生徒や保護者からの声に耳を傾け、様々な事情をもつ生徒に対して学校全体で共通理解をもち、組織的に対応できる体制を構築する。生徒のわずかな変化を見逃さず、速やかに適切な対応をとることで信頼関係を強固なものとする。
	○不登校生徒を支援する対策の推進 ○外部機関等との連携の継続と強化	3	3	巡回支援教員やスクールカウンセラーの来校日に合わせ、特別支援教育推進委員会を開催し、特別な配慮を必要とする生徒に対し共通理解と対応の検討を行った。図書室に校内フリースクール(ステップタイム)を設置し、生徒の居場所づくりを推進した。児童相談所、子ども家庭支援センターなど外部機関とも綿密に連携して対応にあたった。	ステップタイム(校内フリースクール)を立ち上げ実際に運用している事は素晴らしいと思う。さまざまな事情を抱える生徒の学校における居場所があるのは大切なことである。生徒とボランティアがどのような関わり方をしているのかを理解し、教員もさらに関わられるようになればよいと思う。	特別支援教育推進委員会を中心に、スクールカウンセラー、サポートルームと綿密に連携をとり生徒理解に努める。ボランティア等の外部人材を活用と、校内体制の再構築により、ステップタイム(校内フリースクール)の運用をさらに円滑に行い、生徒の居場所づくりを促進し、生徒が学習する機会を保障していく。
本校の特色	○命の教育、人権教育の推進	3	3	9月の「命の週間」において、全学年で命をテーマにした道徳の授業を実施した。道徳地区公開講座では外部から講師を招き、「命の大切さ」についての講演を開催した。全教育活動を通じて人権教育の推進を図っている。	命の教育、人権教育はいじめの防止にもつながり大切なこと。本日の意味で命の大切さを理解することは簡単ではないが、日ごろからの取組を継続していくことが重要。いじめはなかなか目に見えませんが、学校の迅速な対応は喜事だと思います。いじめゼロに向けた組織的な取組を共通理解をもつて行われているのは素晴らしいですが、成果指標が「2」であることは残念に思います。今後も綿密な連携を継続し、生徒を見守っていただきたい。	今年度に引き続き、「命の授業」を実施し、命の大切さに対する啓蒙・啓発を促進していく。清瀬ラゴとも協力し、オンラインを活用して情報を広く発信していく。道徳教育推進委員会や命と人権教育推進委員会を中心に人権教育を推進し、人間尊重に基づく教育活動を実践していく。
	○いやがらせ、いじめゼロ(0)への挑戦	3	2	生活指導部からの報告に加え、特別支援教育推進委員会や学年・保護者からの報告・相談に対し、いじめ防止対策推進委員会を開催し、全教職員で共通理解をもつて、いじめゼロに向けて組織的に対応している。保護者や外部機関とも綿密に連携して対応にあたった。	いじめ防止対策推進委員会を中心に、いじめにつながる可能性のある懸念事項を共通理解し、組織的に対応することで、いじめの未然防止に努め、いじめゼロの学校を目指す。万が一、いじめと思われる事態があった場合についても、迅速に対応策を検討し実行することで、早期発見・早期解決につなげる。	